



様式第6号(第17条関係)

平成26年4月4日

## 事後評価書

加賀市長 宮元 陸 殿

加賀ふるさと検定・おもてなし講座実行委員会 会長 新家康



実施した提案事業について、加賀市市民等提案規則第17条の規定に基づき、事後評価書を提出します。

- 1 事業名称 「加賀ふるさと検定・おもてなし講座開催事業」
- 2 実施事業の内容

当事業は、加賀商工会議所と山中商工会を中心に、(一社)加賀市観光交流機構、江沼地方史研究会、観光ボランティア大学、市公民館連合会、NPO歴町センター大聖寺の計7団体で構成する「加賀ふるさと検定・おもてなし講座実行委員会」(会長:加賀商工会議所会頭)を組織し実施した。具体的な作業は、この委員会の下に「事業実施部会」「試験問題作成部会」「おもてなし講座部会」の3部会を設置し実施した。

【ふるさと検定】 本年度は「初級試験」のみを実施。試験は12月1日に加賀商工会議所ホールにて行ない、当日は267名が受験した。全60問の出題により、規定の7割以上42点以上を獲得した62名が合格した。なお、これに先立ち11月10日には、受験者のための特別講座を商工会議所会議室にて開催した。3人の講師により、加賀の歴史や文化についてのポイントが分かりやすく講義がなされ、59名の受講者が熱心に聴き入った。

12月18日には、合格者上位3名を招き表彰式を行ない、新家実行委員会会長(加賀商工会議所会頭)から合格認定書と合格バッジ、表彰状を贈呈した。このあと、問題作成をした委員や出題を担当した委員などを交えて、問題の難易度やこれからの検定試験の在り方などをめぐっての意見交換会を実施した。

【おもてなし講座】 本年度は3回開催した。1回目は「温泉と癒し文化」をテーマに山中温泉「山中座」周辺を会場に、山中節や山中温泉の歴史を学んだり、和服を着て温泉街を散策した。2回目は「武家文化と心遣い」をテーマに大聖寺山ノ下寺院群及び九谷焼美術館などを会場に、大聖寺藩の歴史を学び、お茶会を体験した。3回目は「食と器」をテーマとして山代温泉の魯山人寓居跡やいろは草庵周辺を会場に、九谷焼や山中漆器の器で加賀の伝統料理を味わうと共に、おもてなしの心を学んだ。この3回の講座に延べ72人が参加した。

### 3 実施事業の成果について

検定試験（初級試験）を受験された 267 名の方々の中には、職場でチームをつくりグループで受験した企業も数社あった。大聖寺実業高等学校では、1 年生全員（113 名）が受験し新聞でも大きく報道された。このほか、観光ボランティア大学の生徒や観光業に勤める方も多数受験し、北陸新幹線金沢開業を目前にひかえ、市民の「ふるさと意識」や「おもてなし意識」の高揚に少なからず寄与したものと考えている。また、受験者の中には、87 歳で合格した方をはじめ、高齢者も多く、当該事業が生涯学習の一環としての主体的に学ぶ意欲を促進させる効果があったものと考えている。なお、市内実業高校の 1 年生全員が受験し、残念ながら今回は全員不合格となったが、受験するまでの 1 カ月間、毎朝、自習時間を割いて意欲的にふるさと学習に取り組むなど、高校生の中で郷土の歴史や文化を学ぶ気運が生じたことは大きな成果であったと考えている。

一方、3 回シリーズで実施した「おもてなし講座」に皆出席した方は 13 人という、少数であったが、接遇マナーを郷土の歴史や伝統文化を通じての質の高い講義により、今後、おもてなしのリーダーとして、市民の手本となって、さまざまな場において活躍されるものと期待している。

### 4 提案事業実施の課題

当市の「ふるさと検定」は、当市においては初めての試みの事業であり、試験問題の作成から、受験対策としてのテキストの準備などにおいて、暗中模索の中で実施した。そのため、「初級試験としては問題が難しかった。」「試験問題が歴史に偏りすぎだ」あるいは「しっかりとしたテキスト本をつくってほしかった」などさまざまなご意見をいただいた。

26 年度に予定している第 2 回目の「ふるさと検定」においては、こうした意見を取り入れて、高校生からも合格者が出るよう、難易度を慎重に設定することや、問題も歴史文化に偏ることなく、産業や郷土料理、現代情報など幅広いジャンルから取り上げること、受験者のためのしっかりとしたテキスト本を作成することなどを目標としたい。また、受験生のための特別講座の開講やその年の「テーマ」設置などについては、1 回目同様、さらなる充実を図っていきたい。検定・受験講座については観光業の方が受験しやすい時間帯を検討したい。当事業は、総額でおよそ 100 万円程度を必要とするが、市から 30 万円の助成金をいただき、第 1 回目を実施したが、今後、補助金を受けず、受験者の受験料と加賀商工会議所、山中商工会の負担金だけで、実施していけるのかが課題である。

「おもてなし講座」については、これまで山中温泉、大聖寺、山代温泉と会場地を順に変えてきたが、動橋や分校、瀬越など、その他の地区においても質の高い講座を開催していけるのかが課題となっている。より多くの方が参加されるよう事業の周知について工夫していきたい。